

資源管理型漁業推進総合対策事業調査

1. 広域回遊資源：日本海北区 第Ⅰ期対象魚種（ヒラメ、マガレイ、マコガレイ、マダイ）
(抄 録)

伊 藤 欣 吾 ・ 原 子 保

目 的

平成6年度から資源管理が開始された第Ⅰ期対象魚種について、漁獲動向を把握する。

内 容

ヒ ラ メ

青森県日本海海域における1998年のヒラメの漁獲量は147トンで、前年比108%に増加したものの近年で最も多い1996年の89%であった。前年の漁獲量と比較すると、岩崎村漁協と舳作漁協の増加が著しく、月別では1～6月に増加した。銘柄別漁獲量は前年とほぼ同様の銘柄組成であった。漁獲金額は3億1,600万円で前年比91%に減少した。

マ ガ レ イ

青森県日本海海域におけるマガレイの漁獲量は1993年以降減少傾向であったが、1997年はやや増加に転じたものの、1998年は51トンで1993年以降最も少なかった。1998年の漁獲量を前年と比較すると、地域的には大戸瀬漁協、時期的には1月の漁獲量の減少が著しかった。漁獲金額は5,100万円で前年比62%に減少した。鯆ヶ沢漁協の沖合底曳網における銘柄別漁獲量の推移によると、1995年から銘柄「小」、「中」が著しく減少し、さらに1996年から銘柄「大」が半減したが、1997～1998年は銘柄「小」、「中」が増加した。ただし、大戸瀬漁協と風合瀬漁協の「小カレイ」を全てマガレイとして集計したので、過大評価になっている。

マ コ ガ レ イ

青森県日本海海域における1993年以降のマコガレイの漁獲量は1994年に大きく減少した後、ほぼ横這いに推移した。1998年の漁獲量は51トン（昨年比91%）であった。漁協別および月別の漁獲量を前年と比べると、それぞれ多少の増減がみられる程度であった。漁獲金額は4,800万円で前年比80%であった。鯆ヶ沢漁協の沖合底曳網における銘柄別漁獲量の推移によると、銘柄「大」の占める割合が約80%と高く、各年とも銘柄比率に大きな変化はなかった。ただし、大戸瀬漁協と風合瀬漁協の「小カレイ」に含まれるマコガレイを除いて集計しているので、過小評価になっている。

マ　　ダ　　イ（栽培資源）

青森県日本海海域における近年のタイ類（マダイとチダイ）の漁獲量は、1992年に大きく増加した後、約120～200トンで変動していた。1998年の漁獲量は188トンで前年より多いものの近年では例年並であった。漁協別では鰯ヶ沢、大戸瀬、深浦、岩崎村が多く、漁法別ではほとんど定置網によるものであった。漁獲金額は1億9千万円で前年比136％に増加した。

大戸瀬漁協の漁獲量を銘柄別に見ると、銘柄「P」以上（100g以上）の大型は1996年以降多くなっている、一方、「P」以下の小型は1992～1995年では減少傾向であったが、1996年に増加した後、年々減少していた。

1998年のタイ類にしめるマダイの割合は例年と大きな違いは見られなかった。秋田県の標識放流魚は発見されなかった。